

平成23年度 八尾市障害児保育協議会関係資料

1. 八尾市障害児保育協議会委員会名簿 P.1
2. 八尾市障害児保育協議会規則 P.2～P.3
3. 平成22年度乳幼児健康診査等実施状況 P.4～P.7
4. 平成22年度子育て総合支援ネットワークセンター
「みらい」における実施状況 P.8～P.10
5. 平成22年度いちよう学園における療育等の状況 P.11～P.13
6. 八尾しよとく園の状況 P.14
7. 平成22年度私立保育園障がい児保育実施状況 P.15～P.17
8. 平成22年度公立保育所障がい児保育実施状況 P.18～P.21
9. 平成22年度障がい児保育所(園)入所状況 P.22
10. 平成22年度教育サポートセンターの役割と取り組み P.23～P.25

八尾市障害児保育協議会委員名

(期間 平成23年6月1日～平成25年5月31日)

委嘱	安藤 忠	大阪府立大学名誉教授
委嘱	堀 智晴	常磐会学園大学教授
委嘱	磯沢 淳子	常磐会短期大学教授
委嘱	玉田 育子	保育所(園)保健会会長
委嘱	前田 まゆみ	キリン第二保育園長
委嘱	浅野 隆史	教育サポートセンター所長
任命	白石 哲也	健康福祉部次長兼障害福祉課長
任命	松田 勝人	いちよう学園長
任命	辻 京子	保健推進課長補佐
任命	小林 栄次郎	こども未来部次長兼保育課長
任命	道本 久臣	子育て総合支援ネットワークセンター所長
任命	森山 美代野	未広保育所長

幹事	足立 淳志	保育課保育所入所係長
幹事	木下 あつみ	保育課長補佐

〇八尾市障害児保育協議会規則

昭和 55 年 8 月 30 日
規則第 40 号

改正 昭和 57 年 7 月 2 日規則第 36 号
昭和 61 年 4 月 1 日規則第 7 号
平成 4 年 4 月 1 日規則第 9 号
平成 20 年 3 月 31 日規則第 39 号

八尾市障害児保育協議会規則

(目的及び設置)

第 1 条 本市における障害児の発達と福祉の増進を図るため、八尾市障害児保育協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(任務)

第 2 条 協議会は、障害児保育に関する諸問題を調査、研究、協議を行い、意見を述べるものとする。

2 協議会は、必要に応じて関係職員に対し指導、助言を行うことができる。

(組織)

第 3 条 協議会は、委員 15 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 障害児(者)医療に従事する医師
- (3) 障害児福祉に関する事業に従事する者
- (4) 関係行政機関の職員
- (5) 保育現場職員
- (6) その他市長が適当と認めるもの

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第 5 条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、副会長がその職務を代理する。

(部会)

第 6 条 協議会が必要と認めるときは、協議会に部会を置くことができる。

2 部会は、協議会が指名する委員をもって組織する。

3 部会に部会長を置き、部委員の互選により定める。

(会議)

第7条 協議会は会長が、部会は部長が招集し、協議会は会長が、部会は部長が、それぞれ会の議長となる。

2 協議会及び部会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3 協議会及び部会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係者の出席)

第8条 協議会及び部会は、必要があると認めたときは、議事に関係のある者出席を求め、その意見を聞くことができる。

(幹事)

第9条 協議会に幹事若干人を置く。

2 幹事は、関係行政機関の職員のうちから市長が任命する。

3 幹事は、協議会の任務について、委員を補佐する。

(報酬)

第10条 委員の報酬の額は、会議に出席した日1日につき特別職の職員で非常勤のものとの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和31年八尾市条例第166号)別表中「その他の委員」について定める額とする。ただし、市の職員については、支給しない。

(庶務)

第11条 協議会及び部会の庶務は、こども未来部において行う。

(委任)

第12条 この規則に定めるもののほか、協議会の組織及び運営について必要な事項は、会長が定める。

乳幼児健診実施状況

H22年度

	対象児	受診児	受診率
4か月児健康診査	2198	2141	97.4%
1歳6か月児健康診査	2294	2169	94.6%
3歳6か月児健康診査	2259	1921	85.0%

最終未把	把握	把握率
4	2194	99.9%
5	2289	99.8%
15	2244	99.3%

4か月児健康診査 要フォロー児の内訳
※結果が「要経観」「要精検」「要治療」

延:394人 実:389人(フォロー率18.2%)

方針	延べ人数
経過観察健診	162
電話	48
保健師フォロー	21
保健所フォロー	25
所外乳児相談	62
他機関紹介(みらい(家庭児童相談))	1
他機関フォロー中(みらい家庭児童相談)	3
他機関フォロー中(みらい(その他))	3
精検	29
1歳6か月児健診チェック	3
治療中等	37
延べ件数	394

1歳6か月児健康診査 要フォロー児の内訳
※結果が「要経観」「要精検」「要治療」

延:558人 実:518人(フォロー率23.9%)

方針	延べ人数
経過観察健診	23
発達相談	78
電話	222
訪問	5
面接	1
保健師フォロー	17
保健所フォロー	13
ぴよんぴよん教室	161
他機関フォロー中(いちょう学園外来保)	1
他機関フォロー中(みらい家庭児童相)	5
他機関フォロー中(みらい(その他))	2
他機関フォロー中(子ども家庭センター)	2
精検	17
治療中等	11
延べ件数	558

3歳6か月児健康診査 要フォロー児の内訳
※結果が「要経観」「要精検」「要治療」

延:220人 実:211人(フォロー率11.0%)

方針	延べ人数
経過観察健診	10
発達相談	52
電話	51
訪問	4
保健師フォロー	18
保健所フォロー	2
他機関紹介(しょうとく園(こぐま組))	1
他機関紹介(いちょう学園(外来保)	5
他機関紹介(みらい(家庭児童相談))	3
他機関紹介(みらい(教室))	2
他機関紹介(みらい(その他))	1
他機関紹介(その他の他機関)	1
他機関フォロー中(しょうとく園(入園))	1
他機関フォロー中(しょうとく園こぐま)	2
他機関フォロー中(教育サポートセン)	2
他機関フォロー中(みらい家庭児童相)	8
他機関フォロー中(みらい(教室))	1
他機関フォロー中(みらい(その他))	6
他機関フォロー中(子ども家庭セン)	1
他機関フォロー中(その他の他機関)	1
精検	32
治療中等	16
延べ件数	220

H22年度

1歳6か月児健康診査フオロ―教室(びんびん教室)後の処遇の状況

在宅(フオロ―不要)	31人
電話フオロ―	19人
経過観察健診(心理)	66人(みらい いちよう わくわく紹介等と重複47人)
いちよう学園の外来保育	15人(発達相談と重複15人)
みらいの親子教室(ぼんだ)	16人(発達相談と重複16人)
みらい紹介(家児相、虐待相談等)	2人
わくわく教室紹介	28人(発達相談と重複16人)
保健師フオロ―(出産のため等)	14人

計 実144人
延191人

発達相談―経過観察健診(心理)―の結果内訳(延べ数)

異常なし	63人
発達相談継続	154人
3.6Cで確認	30人
保健師フオロ―(電話・訪問等)	39人
びんびん教室(1.6Cフオロ―教室)	30人
わくわく教室	35人
みらいの親子教室(ぼんだ)	20人
みらいの親子教室(ぼつぼ)	19人
みらいの親子教室(クッキー)	3人
みらいの親子教室(こあら)	0人
いちよう学園の外来保育	19人
家庭児童相談室	0人
こぐま組(しよとくデザイナーズ)	22人
子ども家庭センター	0人
教育サポートセンター	4人
生野ろう学校	0人
医療機関紹介	6人

計 実352人
延べ444人

母子保健事業実績(健診とフォロー教室)

事業名		平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
4か月児健康診査	開催数	47回	47回	47回	47回	47回
	対象数	2,291人	2,308人	2,356人	2,227人	2,198人
	受診数	2,310人	2,232人	2,267人	2,146人	2,141人
	受診率	95.6%	96.7%	96.2%	96.3%	97.4%
	フォロー率	15.8%	16.8%	16.7%	18.9%	18.2%
1歳6か月児健康診査	開催数	36回	36回	36回	36回	36回
	対象数	2,430人	2,399人	2,251人	2,373人	2,294人
	受診数	2,212人	2,255人	2,089人	2,232人	2,169人
	受診率	91.0%	94.0%	92.8%	94.1%	94.6%
	フォロー率	23.8%	24.7%	26.0%	25.5%	23.9%
3歳6か月児健康診査	開催数	24回	24回	24回	24回	24回
	対象数	2,601人	2,471人	2,428人	2,372人	2,259人
	受診数	2,000人	2,033人	2,023人	1,995人	1,921人
	受診率	76.9%	82.3%	83.3%	84.1%	85.0%
	フォロー率	10.5%	10.0%	12.5%	12.7%	11.0%
乳幼児精密健康診査 (医療機関委託)	受診数	85人	79人	100人	229人(視聴覚含む)	74人(視聴覚含む)
乳児一般健康診査 (医療機関委託)	受診数	2,031人	2,030人	2,001人	1,861人	1,919人
	異常なし	1,928人	1,903人	1,879人	1,781人	1,840人
	異常および異常の疑い	103人	127人	122人	80人	79人
乳児後期一般健康診査 (医療機関委託)	受診数	1,776人	1,766人	1,812人	1,818人	1,773人
	異常なし	1,550人	1,589人	1,674人	1,630人	1,553人
	異常および異常の疑い	226人	177人	138人	188人	220人
経過観察健診 (身体)	予約数	371人	326人	325人	368人	394人
	受診数	303人(12回)	258人(12回)	280人(12回)	301人(12回)	323人(12回)
経過観察健診 (心理)	予約数	586人	506人	542人	470人	492人
	受診数	537人(36回+個別)	478人(36回+個別)	497人(36回+個別)	437人(35回+個別)	456人(36回+個別)
1歳6か月児健診フォロー教室 (びよんびよん教室)	参加実人数	122人	135人	154人	144人	142人
	参加延人数	567人(42回・6回×7クール)	632人(48回・8回×8クール)	660人(48回・8回×8クール)	601人(48回・6回×8クール)	644人(48回・6回×8クール)
	対象:要経過観察児		対象:要経過観察児	対象:要経過観察児	対象:要経過観察児	対象:要経過観察児
出生数		2,329人	2,335人	2,302人	2,193人	2,196人

八尾市母子保健事業概要

母子保健指導

母子健康手帳交付
マタニティマーク普及啓発

両親教室

妊婦歯科教室

こんにちは赤ちゃん事業

えほんデビュー事業
離乳食講習会
所外乳児相談
一般栄養相談

電話相談

家庭訪問
・ハイリスク妊産婦
・新生児
・未熟児※
・乳幼児
・長期療養児※
・身体障害児※
・被虐待児
・育児不安等

障がい児(者)
歯科予防教育

【予防接種】

一次健診

妊婦健康診査(14回)
(医療機関委託)

乳児一般健康診査
(医療機関委託)

4か月児健康診査

乳児後期健康診査
(医療機関委託)

1歳6か月児健康診査
(歯科健康診査を含む)

3歳6か月児健康診査
(歯科健康診査を含む)

二次健診

乳児ぜん息アレルギー健診

総合療育相談※

経過観察健診
(身体・視聴覚・心理)

他医療機関紹介
(乳幼児精検票発行)

3歳6か月児視聴覚健康診査

総合療育相談※

連絡調整機能

児童虐待発生予防対策事業
(H17年～)

▽要保護児童対策地域協議会
▽子育てコーディネイト連絡調整会議

▽障がい児保育協議会
▽家庭支援推進保育所事業

▽虐待、困難事例検討会議

【フォロー教室】

- ◇幼児栄養教室(スプーン教室)
- ◇幼児歯科教室
- ◇1歳6か月児健康診査後フォロー教室
- ◇気管支・ぜん息機能訓練事業

フォロー教室等

肢体不自由児通園施設
(八尾市立いちよう学園)
(いちよう学園・外来保育)

知的障がい児通園施設
(八尾しょうとく園)

児童デイサービス
(こぐま組)

保育課 (元気っ子ひろば)
(わくわく教室)

ネットワークセンターみらい おやこ教室
家庭児童相談室
マザーグループ(ラッコくらぶ)

保育所・幼稚園(障がい児枠)

教育サポートセンター

子ども家庭センター
(ポニースクール)

《その他の事業》

特定呼吸器疾病予防回復事業
乳幼児医療費公費負担制度
児童扶養手当
ひとり親家庭日常生活支援事業
ひとり親家庭医療費公費負担制度
母子家庭自立支援事業
(自立支援教育訓練給付金)
(高等技能訓練促進費)
特別児童扶養手当
障害児福祉手当
重度障がい者(児)医療費公費負担制度
重度障がい者介護手当
未熟児養育医療助成制度※
小児慢性特定疾患医療助成制度※
育成医療助成制度※
結核児童の療育医療助成制度※
特定不妊治療費助成事業※

《子育て支援サービス》

つどいの広場
市内12ヶ所
はとぼっぼ
ショートステイ
トワイライトステイ
病児・病後児保育
一時預かり(一時保育)
休日保育
ママ・サポート
地域交流・園庭開放
地域子育て支援センター
やおファミリーサポートセンター
放課後児童室
子育てパートナー派遣

※は保健所で実施

子育て総合支援ネットワークセンター「みらい」

平成22年度 児童家庭相談の状況

<障がい児保育との関係>

- ・平成22年度は、児童家庭相談から障がい児保育につながったのは10ケース、障がい児保育対象児（在園児）の相談が16ケースである。ほとんどが継続して来所しているが、面接の頻度においてはケースにより異なっている。また、保育所（園）在園児の中で、障がい児保育ではないが児童家庭相談に来所したケースが9ケースあった。
- ・母親の話をききながら、子どもへの対応の仕方を具体的に援助し、保育所へも訪問して担任との連携をはかり、支援を進めている。
- ・就学前には教育サポートセンターを紹介し、スムーズに入学できるように援助している。

<最近の相談傾向>

- ・多問題家族（家庭内のトラウマの絶えない家族）がほとんどを占めている。親が精神科通院中のケースが毎年増加し、7～8割を占めている。また、生活保護、ひとり親家庭も多い。
- ・幼稚園児、小学生、中学生の相談は発達障がい（LD・ADHD・広汎性発達障がい）が多い。特に3歳半健診ではチェックされなかったが、集団の中で他児との違いが目立ち、相談にいられることが多い。
- ・虐待ケースについては、従来比較的軽度のものや予防的な関わりが中心だったが、平成19年度より要保護児童対策地域協議会事務局となり、虐待対応ケースが急激に増加している。その中では、問題意識のない保護者も多く、家庭訪問と関係機関との連携・調整の業務が増えている。

<相談件数（実数）>

養護相談		障がい相談						
児童虐待相談	その他 の相談	保健 相談	肢体不 自由者 相談	視聴覚 障がい 相談	言語発 達障が い等相 談	重症心 身障が い相談	知的障 がい相 談	自閉症 等相談
346	66	4	0	0	144	2	19	26

非行相談		育成相談					その他 の相談	計
ぐ犯行 等相談	触法行 為等 相談	性格行 動相談	不登校 相談	適正 相談	育児・ しつけ 相談			
0	0	78	4	1	79	28	797	

◆平成22年度親子教室参加者の平成23年4月の進路等

(人)

平成23年4月の進路等	平成22年度参加教室※				計
	ばんだ	こあら	ポップクラフ	クッキークラフ	
親子教室継続	6		1		7
公立保育所	1				1
法人立保育所(園)	2		6		8
公立幼稚園			2	8	10
法人立幼稚園	1		8		9
しようく園			2		2
しようく園(こぐま組)	5		3		8
終了	3		7		10
その他	6		1		7
計	24	0	30	8	62

※各参加教室とは、参加者が平成22年度中、最終に参加した教室であり、平成23年4月の進路を算定している。

◆親子教室参加者の他施設との交流事業

(人)

1. 保育所交流

	春	冬	計
庄内保育所	6	9	15
安中保育所	8	1	9
計	14	10	24

2. しようく園こぐま組

	春	冬	計
見学会	7	5	12

※保育所では保育の様子を見るだけでなく、保育体験をさせていただいている。
また、保護者からの質問にも答えたいいただき、今後の進路決定に大変参考に
なっている。

◆保育所(園)の障がい児保育、こどもの発達に関する相談(平成22年度実施)

障がい児保育申込み経路。

平成22年度は11月9日(火)～19日(金)及び14日(日)の10日間実施。

所属機関・関係機関	入所時年齢					計
	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
保健所						0
いちよう学園 通園			1	2		3
いちよう学園 外来			6			6
みらい 親子教室			5	1		6
みらい 家児相						0
保健センター			2			2
市内認可園			8	1	1	10
しよとく園			3	1	1	5
こぐま組			8			8
他市機関						0
その他			2	1		3
所属なし			10	2		12
計	0	0	45	8	2	55

・市政日より等でも周知しているが、参加者のほとんどは所属機関からの情報提供により申込みされている。

・相談では臨床心理士、心理職が対応。発達検査を実施したり、保護者からの質問に対応している

・2歳児以前からの入所(園)児は、所属保育所(園)からの申込みとなっている。

平成22年度 いちよう学園における療育等の状況

1. 契約児の療育

(1) 契約状況 (平成22年度在籍児) 平成23年3月31日現在

5歳児→3名・4歳児→5名・3歳児→8名
2歳児→6名・1歳児→8名・0歳児→9名 計 39名

(2) 療育内容

①訓練 (理学療法、作業療法)、保育 (言語、摂食指導を含む)、健康管理等と併せ保護者に対して療育指導及び相談など行う。

②外部講師による指導

発達相談 (年間11回)、言語・摂食指導 (年間24回)、歯科衛生指導 (年1回)

③医師による診察

内科小児科 (月1回)、整形外科 (月4回)、小児神経科 (週3回)、精神科 (月1回)
歯科 (年2回)、耳鼻科 (年1回)、眼科 (年1回)

(3) 卒退園児進路状況

府立藤井寺支援学校	1名	府立東大阪支援学校	1名
市立八尾特別支援学校	1名	公立幼稚園	3名
八尾しようどく園	2名	こぐま組	1名
公立保育所	5名	自宅	1名
			計15名

2. 外来児の療育 (外来の対象児は・入園を前提とした子ども・卒退園児で継続して療育や経過観察を要する子ども・諸機関から紹介または相談のあった子ども等)

(1) 訓練外来

人数 89人 実施回数 1,121回 (すべて個別)

年齢 \ 所属	在宅	保育所	幼稚園	しようどく園	一般校	支援学校	合計
0～2歳	24	1					25
3～5歳		13	2	6			21
学童					30	13	43

(2) 保育外来

①人数と回数 人数 58人 (延べ人数 645人)
個別又はグループ保育実施回数 443回

②紹介機関 保健センター、保健所、みらい、医療機関 他

③外来理由 対人関係、言語・情緒面に問題

3. 関係機関への職員派遣及び相談業務

- (1) 八尾保健所事業への派遣
 - ①総合療育相談 月2回 (理学療法士・作業療法士・保育士)
- (2) 保健センター 母子保健事業への派遣
 - ①経過観察健康診査 (二次健診) 保育士 月2回、理学療法士 月1回
- (3) 相談業務など
 - ①市立保育所、幼稚園への訪問指導 (理学療法士・作業療法士)
- (4) 市住宅改造事業への派遣 (理学療法士)
 - ①現場調査及び会議
- (5) 補装具交付判定の為の相談 (理学療法士)

4. 保育所との連携及び交流

- (1) 保育所交流 (月2回) 2ヶ所の保育所と年22回の交流を計画
- (2) いろいろな学園に退園児の進路相談
- (3) 保育所在籍児の外来 (訓練・保育) 受け入れ
- (4) 保育所在籍児の生活面での助言及び相談
- (5) 研修 (保育所職員対象)

5. 今後の課題

- ・ 退園児や外来終了児の進路先 (保育所・幼稚園等) との連携
- ・ 進路決定に向けた情報提供
- ・ 関係機関 (保健所、保健センター、みらい等) との連携
- ・ 発達支援センターへの移行 (平成24年度へ)

平成22年度 いちよう学園外来保育の状況 (1)

内 容	対 象	回 数	時 間	人 数
入所対象児(0～2歳児) 個別対応指導 個別対応指導 (1～5歳児) 退園児フォロー	保育及び訓練サポートの必要児 発達に遅れがある 母子関係に問題がある親子	1～4回/月	午前9:00～午後5:00	9
				23
				4
グループ指導	1、2、3歳児	3回/月	午前9:30～11:00	0
		3回/月	午前9:30～11:00 午後3:15～4:30	0
		3回/月	午後1:20～3:00	22
訪問指導	医療的・家庭的問題の在宅児・外来児	必要に応じて	午前・午後	0
相談		随時	午前・午後	0
園庭開放(ひまわりキッズ)	外来児・地域児童	1回/月	午前	20

いちよう学園外来保育の状況 (2)

年齢区分と紹介機関

平成22年4月1日現在の年齢

年齢/紹介機関	継続児	保健所	保健センター	PT他	人 数
0 歳児				4	4
1 歳児	4		13	2	19
2 歳児	14		7		21
3 歳児	2		4	1	7
4 歳児		4			4
5 歳児以上		3			3
計	27	0	24	7	58

外来保育・人数

年 度	人 数	実施回数
H17年度	62	404
H18年度	63	377
H19年度	52	417
H20年度	49	414
H21年度	60	397
H22年度	58	443

外来理由

平成22年4月1日現在の年齢

年齢/理由	訓練対象児発達 遅れの遅れ	対人・情緒	母親の問題	グループ必要	ことばの問題	人 数
0 歳児	4					4
1 歳児		3	1			19
2 歳児		1	1			21
3 歳児		2		4	1	7
4 歳児			1			4
5 歳児以上			3			3
計	9	6	1	4		38

年齢別進路先

平成23年3月31日現在

年齢/紹介機関	いちよう学園	こぐま	しょうとく	小学校	保育所	みらい親子教室	幼稚園	在宅・転居	次年度継続	合計
0 歳児	1				1				2	4
1 歳児	1	7	1		2			1	7	19
2 歳児			5		7		4	3	1	21
3 歳児					1		4	1	1	7
4 歳児									3	4
5 歳児以上								1		3
計	2	12	2	2	12	0	9	5	14	58

～八尾しようと園の状況～

＜平成22年度実績＞

a:知的障害児通園施設		b:児童デイサービス(こぐま組)		
月	定員	在籍者数	月	利用者数
4月	60	53	4月	16
5月	60	53	5月	16
6月	60	53	6月	16
7月	60	53	7月	22
8月	60	53	8月	22
9月	60	53	9月	22
10月	60	53	10月	22
11月	60	53	11月	22
12月	60	53	12月	22
1月	60	53	1月	22
2月	60	53	2月	22
3月	60	53	3月	22
		636		
			246	

a:知的障害児通園施設

＜クラス編成＞

- ・2～3歳児(すみれ組)
- ・3歳児(さくら組)
- ・4歳児(ふじ組)
- ・5歳児(きく組)

＜園児数＞

- 12人
- 13人
- 13人
- 15人

b:児童デイサービス(こぐま組)

障害者自立支援法に基づく障害福祉サービスの一つで、発達に遅れがある子どもを
通園させて療育指導等を行う。

「こぐま組」では主に2歳児を対象とし、利用期間は一年間としている。

平成22年度 私立保育園障がい児保育実施状況

一人ひとりのニーズを大切にしたい障がい児保育を進めながらも、入園後に健常児の中でも配慮がいる園児の対応に追われることが多くなってきている。また、多様な障がいのケースに対応できるための知識と実践が必要とされている。

1. 障がい児巡回指導（専門講師による保育園入園障がい児の保育指導）

・対象 私立保育園

・講師及び巡回回数・・・年間各1回

大阪府立大学名誉教授 安藤 忠氏

桃山学院大学准教授 安原 佳子氏

帝塚山大学専任講師 鶴 宏史氏

2. 障がい児研修

(1) 研修会（社会福祉法人 大阪社会福祉協議会 大阪社会福祉センター）

◎テーマ

「障がい児保育専門ゼミナール」

“自閉スペクトラム・学習障がい・注意欠陥／多動性障がい等の軽度発達障がいを中心にした研究”

・開催回数・・・10回

・参加者・・・保育士1名

講師 安藤 忠氏（大阪府立大学 名誉教授）

大貝 茂氏（武庫川女子大学 准教授）

安原 佳子氏（桃山学院大学 准教授）

鶴 宏史氏（帝塚山大学 専任講師）

・内容・・・大阪府下の私立保育園から30名の保育士が参加してグループ討議や事例報告を行なった。今回は「ターゲットの行動を絞り込むフォーム」と「指導の手続き作成フォーム」を追加し、指導の実効性を高めることをねらいにして行う。

3. 障がい児保育の実践

- 一人ひとり個別のカリキュラムを組んで保育を進めながら、巡回指導の後は指導していただいた内容を新たにカリキュラムに取り入れる。
- 長時間保育の中で、担任だけでなく保育士全員が障がい児への共通理解ができるよう個々の状況を把握し、今後の保育の進め方についてのケース会議を行う。

- ・保育の中で気になる子ども（落ち着きがない・集団行動がとりにくい等）への配慮を会議などで話し合い、必要があれば関連機関につなげる。

4. 他機関との連携

- ・八尾市役所こども家庭課・・・障がい児枠で入園した子どものケースについての相談。気になる子どものケースの相談。

- ・教育サポートセンター・・・就学に向け、5歳児の加配の園児を見学に来園してもらう。

5. 在宅家庭支援（親支援について）

- ・地域交流事業・・・一時保育、保育園体験、サークル活動、園庭開放、子育て相談などでの親支援を行う。（心配な保護者には「みらい」に相談に行くように進める。）

6. 保育現場における問題点及び課題

- ① 小学校就学時に提出する保育所児童要録について書類上だけでなく面談等で意見交換ができ、小学校との連携を強化できるようにしていきたい。
- ② 就学前児で気になる子どもの様子を、保育園と保護者との連携のもと、今後も教育サポートセンターと連携し充実させていきたい。
- ③ 一時保育では、障がい児ではないかと思える子どもの受け入れ体制の充実を図り、入園に繋げるようにしていく。
- ④ 専門機関と連携をとり保育の充実に繋げた。

事例Ⅰ・・・障がい児の加配として入園してきた3歳児のK君、集団生活の中に入ることが難しく、障がい児担当保育士が常に関わる必要となった為に、3歳児で2名の加配の園児がいるために、こども家庭課に相談したのち、要サポート配慮児の補助事業で保育士をK君専任で担当としてつけることができ、深くかわかることができた。K君も、1年間の園生活を送る中で少しずつだが成長が見られ、進級することが出来た。

児童記録

平成 年 月

児童名		男・女		歳児		平成 年 月 日生	
	健康	人間関係	環境	言葉	表現		
児童の状況							
	生活の領域 (食事・排泄・着脱など)			遊びの領域 (遊び・集中力・対人関係)			
児童の状況							
保護者の子どもの関わり方							
今後の課題							

平成22年度 公立保育所障がい児保育実施状況

保育所では、障がい児の理解ときめ細かい支援を行うために専門家による巡回指導を受けたり、学習の場を持ちました。

障がいの種類も程度も様々な子どもたちを受け入れることで、改めて一人ひとりの発達に寄り添った保育の大切さを振り返ることも多く、まさに「保育の質」が問われるところです。

最近では、障がいなのか個性なのか見極めが難しいまま入所してくる子どもや、入所後、気になる行動が目立ったり発達の違いに気づいたりする子どもが増えてきており、より深い理解が必要です。また、保護者の不安を受け止めることも大切な対応となっています。

1. 障がい児巡回指導（専門講師による保育所入所児の保育指導）

・対象 公立保育所障がい児

・講師及び巡回指導回数

大阪府立大学名誉教授	安藤 忠 氏 (3回)
大阪府立大学准教授	里見、恵子 氏 (5回)

2. 障がい児保育ゼミナール（公立保育所）

・メンバー・・・所長1名 所長補佐2名 保育士各1名(9保育所) 看護師2名
いちよう学園保育士 保育施設課2名

・開催回数・・・年間13回（全体会4回 巡回8回 施設見学1回）

・内 容・・・事例研究、伝達研修、グループ交流と討議、手作りおもちゃの紹介
障がい児保育に関するビデオ、障がい児保育に関する情報交換 等

・施設見学・・・地域生活総合支援センター「自閉症児支援センターSun」(河内長野市)

3. 障がい児保育の実践

・巡回指導を受け、一人ひとりの子どもの発達やニーズにあつた発達支援を進めてきた。

・保育環境を整えながら障がい児を含めたクラス集団作りを進め、加配保育士と連携し保育実践に努めてきた。

・医療的配慮のいる児童については、保護者と十分に話し合うと共に看護師や医療機関と協力し保育を進めてきた。

4. 障がい児保育研修

①「障がいの理解と共に育ちあう保育」

講師 和歌山大学 教育学部教授 小野次郎 氏

②「支援児への配慮や援助の仕方」 ～いちよう学園の療育をとおして～

講師 いちよう学園 言語聴覚士・作業療法士・保育士

③「保育の中で一人ひとりを支えるために」(加配保育士向け)

講師 保育施設課 保育士

5. 他機関との連携と交流

・いちょう学園

交流・・・毎年2保育所(平成22年度は山本南8回・堤8回)実施し、内容の充実を図る。
連携・・・学園より保育所に入所した児童について引継ぎの機会を持つ他、言語指導や訓練を受けている児童の保育にあたり、随時アドバイスをもらったり情報交換をしたり、行事の参加の仕方等についても助言を受けて進めている。
また、それぞれの障がいに応じた椅子、補助便座、手すりの等について助言を受け、活用している。

・みらい(親子教室)

交流・・・毎年2保育所(平成22年度は安中・荘内)で年2回実施し内容の充実を図る。
連携・・・交流会に参加した保護者との意見交換・子育て相談等情報提供をしている。

6. 職員派遣

- ・1歳児半フオロー教室(保育相談及び遊びの指導)・・・7保育所年間4クール(24回)
- ・乳児相談(子育て相談及び遊びの指導)・・・保育所 5箇所
コミュニケーションセンター 1箇所
八尾市役所ロビー 1箇所

7. 地域子育て支援センター事業

- ・妊婦からの育児支援・・・4ヶ月健診への参加と保健センターでのフオロー教室の開催
妊婦と6ヶ月までの親子の交流の場「マタニティー&ベビー」を毎月開催
- ・来所型の子育て支援・・・親子遊び会や親子教室などで広域的な事業を行うとともに、1歳半健診及びフオロー教室への参加と、その後の療育までに配慮のいる子を対象とする親子教室を開催
- ・出前型の子育て支援・・・地域の公園で遊びの会を実施。地域の子育て支援関係機関との連携

これらの事業を通し、各保育所・保健センターとの連携の下、障がい児や発達に課題のある子どもと保護者の支援を行っている。

* 「わくわく教室」・・・1歳半健診後のフオロー教室参加者の中で、療育関連の支援を受けるには至らないが継続して参加できる場が必要と思われる親子を対象に、保健センターから参加勧奨し、支援センターで実施している。(22年度より)通常の親子教室「元気っ子教室」よりも定員を少なく、担当者を多く配置して運営。子どもは遊びの経験を重ね、保護者はグループワークを通して不安を軽減することもでき、他の子育て支援の場へつないでいる。

〔 22年度 勧奨数 (72) わくわく教室参加数 (54)
わくわく教室実施回数 (8クール) 〕

8. 在宅家庭支援

- ・地域子育て支援・・・在宅家庭の子育て支援、サークル活動の親支援 施設提供を行う。子育て支援は随時行う。その中で気になる子どもについては「みらい」につなげる。

- ・家庭支援推進保育所事業・・・入所児童の中で特に支援の必要な家庭に対しての日常的な援助と、地域子育て支援センターとの連携による地域子育て支援の充実を行っている。

9. 環境作り 手作りおもちゃの充実

- ・『自閉症児支援センターSun』での見学内容を保育の中で活用してきた。
- ・保育所での生活・遊び環境を一人ひとりのニーズに合わせた工夫で保育を進めている。

10. 保育現場における問題点及び課題

- ・巡回指導の際、親支援として専門家と保護者との面談（希望面談）を持ち、子育ての悩みや相談等が出来るようにしてきた。その結果、言語訓練施設や専門機関に繋ぐことができ、保護者と一緒に専門機関からの指導を得て、日々の保育での支援に活かすことが出来た。又保護者からも育児の悩みが少し軽くなったとの声も多く聞かれ、今後より一層の取り組みが必要である。
- ・医療的ケアが必要な児童においては、集団生活でのケアの仕方（知識）を学ぶ機会を持ち、医療機関や他機関との連携の充実を図っていく。
- ・保育所保育指針の改定により就学时、保育所児童要録の送付が義務づけとなり、今まで以上に小学校との連携が求められている。特に障がいが多い場合は就学前に保育所での生活を見てもらい、保育所での手だてを小学校での対応の参考にしてもらうなど、教育サポートセンターとの連携をとリスムーズな就学につながるようにより情報交換を行う。しかし、就学前教育サポートセンターに繋ぐには保護者が躊躇される場合がある。特に発達障がいのある児童については、保護者が受けとめにくいことがあり、そのまま就学すると児童がつまずいてしまうというケースが多々見られるので、保護者への働きかけと小学校への実質的な連携が図れるようにしていく。
- ・在宅児童への支援は保健センターや地域子育て支援センターとの連携を進めており、今後さらに保育所の地域支援活動・地域子育て支援センターが在宅の子育て家庭にとっても頼れる存在となるよう工夫した取り組みを行っていくことと、関係機関との連携の強化が必要である。
- ・進級ごとに担任・加配保育士が変っても子どもの理解と支援について、職員全体での共通理解と認識のもとに、保育の引継ぎをきちんと行ない、障がい児保育の知識・実践スキル・保護者への対応スキルを高め、より保育の質の向上につなげていきたい。

個別支援計画書

歳児 (平成 年度 月)

保育所

担任 ()

組 氏 名 男・女 年 月 日 生 (才 月)

ねらい

家庭との連携	職員間の連携	関係機関との連携	
--------	--------	----------	--

子どもの姿(発達状況)

支援内容(育てたいこと・環境等)

健康・人間関係・環境・言語・表現

評価・反省

平成23年度 障がい児の保育所入所状況 (平成23年度4月1日)

<新規分>

※()内の数値は、平成22年度分

	申込数	入所数	その他の施設入所数等
公立	52(66)	12(12)	11
		29(38)	
私立	52(66)	41(50)	11
合計	52(66)	41(50)	11

<年度別入所数(入所児童数は、3歳以上の保育所入所児童数(受託除<委託含む>))>

年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
新規申込数	56	60	66	66	52
入所数	45	47	49	50	41
継続数	67	73	79	82	77
総入所数	112	120	128	132	118
入所児童数	2,512	2,500	2,565	2,616	2,682

<年齢別入所数(下段は保育所入所児童数(受託除<委託含む>))>

	3歳	4歳	5歳	合計
公立	10(10)	9(12)	11(12)	30(34)
	196(208)	213(223)	224(222)	633(653)
私立	26(33)	34(28)	28(37)	88(98)
	699(655)	683(664)	667(644)	2049(1,963)
合計	36(43)	43(40)	39(49)	118(132)
	895(863)	896(887)	891(866)	2682(2,616)

※()内の数値は、平成22年度

平成23年度 保育所における症状例内訳 (平成23年4月1日現在)

- (1) 知的障がい(発達遅滞を含む) 61名
- (2) ADHD LD等(自閉的傾向を含む) 29名
- (3) 言語障がい(配慮児童) 11名
- (4) 肢体不自由 6名
- (5) タウシ症 4名
- (6) 水頭症 2名
- (7) 聴覚障がい 2名
- (8) その他 3名

計118名

平成 22 年度 教育サポートセンターにおける相談の状況
～教育サポートセンターの教育相談および就園就学相談～

八尾市立教育サポートセンター

1. ここ数年の経過と現状について
 - ・ 教育相談・就園就学相談の増加
 - ・ 平成 22 年度就園就学相談の状況 資料 1
2. 教育サポートセンターにおける就園就学相談の取組み
 - ・ 対象：就園就学控え、発達に心配のある子ども及びその保護者
 - ・ 実施時期：6 月から翌年 3 月
 - ・ 相談
 - ・ 発達テスト
 - ・ 学校園見学
 - ・ 行動観察（在籍園等）
 - ・ 子育て講座（保護者対象）
 - ・ 子育て学習会（保護者対象）
 - ・ 遊びを通しての子育て学習会（親子対象）
 - ・ 学校園への報告
 - ・ 就園就学相談フォロー（事例研究会・巡回相談等）
3. 今後の課題と方向性
 - ・ 関係機関との連携の充実
 - ・ 特別支援教育校内支援体制の充実（個別の教育支援計画の作成と活用 の推進等）
 - ・ 関係機関・部局との連携による幼稚園から小学校、小学校から中学校、円滑に移行できるような引継ぎのあり方の検討

平成 22 年度 就園就学相談状況

資料 1

〇八尾市立小・中学校入学者数及び支援学級 1 年在籍者数（八尾市立特別支援学校を含む）

* 平成20年度より府立盲・聾・養護学校の名称が府立支援学校に変わりました。

	平成20年		平成21年		平成22年		平成23年	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
入学者数	2623	2444	2462	2437	2365	2434	2382	2577
支援学級 1 年在籍者数	31	25	57	36	54	40	49	32
就学相談後入級数(1年)	31	12	50	19	54	17	45	24

H23.5.1

1. 相談受付状況

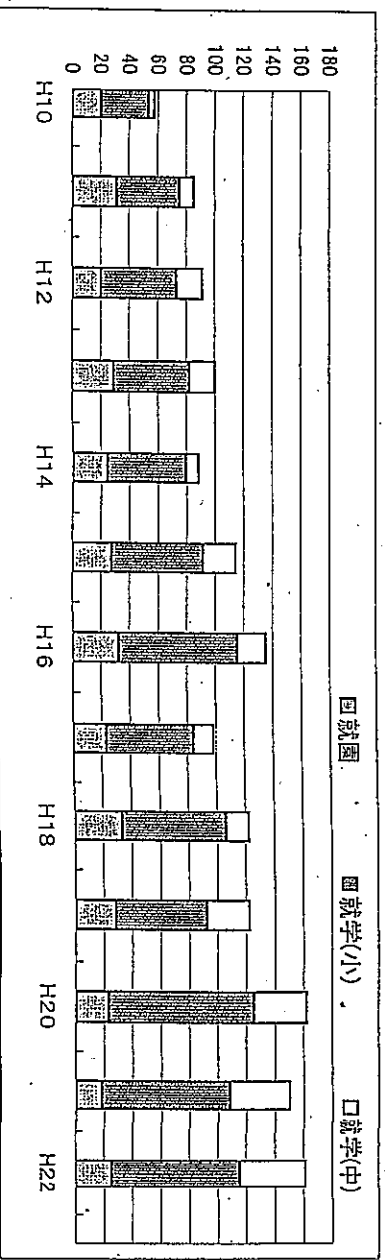
受付件数	就園 (小学校) 就学 (中学校)	性別小計		延べ相談 件数	一人平均 件数	計	
		男	女			合計	合計
		19	6				
		68	22	447	17.9	25	161
		30	16	2462	18.1	46	136

2. 対象別(所屬別) 状況

	住所 (園)	就園		就学(小学校)		就学(中学校)	
		件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
在園	宅	6	24.0	1	1.1	0	0.0
保育所	幼稚園	1	4.0	43	47.8	0	0.0
幼稚園	幼稚園	0	0.0	32	35.6	0	0.0
幼稚園	幼稚園	15	60.0	9	10.0	0	0.0
幼稚園	幼稚園	3	12.0	3	3.3	0	0.0
幼稚園	幼稚園	0	0.0	2	2.2	0	0.0
特別支援学校	特別支援学校	0	0.0	0	0.0	1	2.2
特別支援学校	特別支援学校	0	0.0	0	0.0	45	97.8
合計	合計	25	100	90	100	46	100

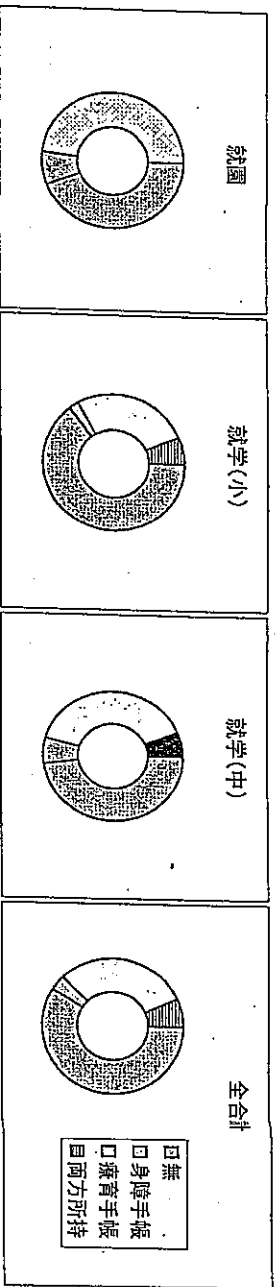
3. 就園就学相談件数の推移

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
就園	20	31	20	29	24	27	32	23	33	28	23	18	25
就学(小)	33	44	53	53	55	64	83	61	73	64	102	90	90
就学(中)	4	10	18	18	9	23	20	14	16	30	37	42	46
就学合計	37	54	71	71	64	87	103	75	89	94	139	132	136
合計	57	85	91	100	88	114	135	98	122	122	162	150	161



4. 身障手帳・療育手帳の所持状況

	無	有			合計
		身障手帳	療育手帳	両方所持	
就園	11	2	12	0	14
就学(小)	58	2	24	6	32
就学(中)	22	3	18	3	24
就学計	80	5	42	9	56
全合計	91	7	54	9	70



5. どのようにして教育サポートセンターを知ったか

	就園 件数	就学			就学合計 件数
		小学校 件数	中学校 件数	高校 件数	
経路	3	11	0		11
幼稚園(園)	0	22	0		22
しよとく学園	12	6	0		6
いちよう学園	3	4	0		4
市政だより	1	0	0		0
継続	1	23	33		56
子ども家庭センター	0	0	0		0
みらい	4	5	0		5
小中学校	0	1	12		13
保健センター	0	9	0		9
知人	0	2	0		2
きょうだいで関係	0	5	0		5
専門機関	1	0	1		1
市役所	0	2	0		2
就学時健診	0	0	0		0
インターネット	0	0	0		0
その他の	0	0	0		0
合計	25	90	46		136